

【議事録】第 5 回 策定委員会

■ 開催日時：令和 7 年 9 月 1 日（月） 13 時 00 分～14 時 00 分

■ 場 所：危機管理センター

■ 議 題：1. 地域別構想について
2. 実現化方策について

■協議事項

～～資料説明～～

■質疑応答・意見交換

質疑応答、意見交換については下記に示すとおりである。

◇地域別構想について

会長) 本日は地域別構想ということで、皆様がお住いの、あるいは関心のある地域についての、皆様からご意見いただいたこと、あるいは地域の皆様からご意見いただいたことを踏まえて、本日の資料ができています。

改めてご自身に関係あるところをもう一度確認した上で、この場で忌憚ないご意見をいただきたい。

皆様の中で何か特別このことについて聞いてみたい、あるいは自分が前言ったことがどう反映されるかも含めて、ご質問があれば承りたいと思う。

E 委員) 興味本位になるが、最近、風力発電が撤退した。富だったと思われる。こういった計画に反映されているのかは知らないが、何か影響などはあったのか。例えば、風力発電がインフラの整備や雇用につながることも想定された。そういった意味で影響はなかったのか。

事務局) ない。以前、委員からもそういったご意見出ていたが、将来的に町が進めていく事業ではなかったため、ある程度のことはお聞きしていたが計画の中には入れていなかった。

ただ、再生エネルギー事業として風力だけでなく水力や太陽光などもある。その辺を進めるべきではないかという意見を、奥津地域の近隣の方にはいただいている。そういった意見を町としてまとめさせていただいている。

E 委員) 奥津にモンベルがオープンしたが、こういった影響が想定されるのか。例えば人流など。

- 事務局) モンベルの物販について、土日の利用者は多いが、平日は少ないと伺っている。現在、モンベルではないが、様々なコラボ関係でマスキングテープのキャンペーンを観光センターで行ったり、そういった影響で奥津へ向かう客も増えているというのは伺っている。
- E 委員) 花火大会を実施しないと伺った。それは病院が影響するのではないか。
- 事務局) 全く影響がないとは言い切れない。
- 会長) E 委員からお話のあった点について、本日、来場前にモンベルや観光センターへ訪れ、先ほどの花火大会の話を伺った。財政的な面の理由があるのかもしれないが、やはりあれだけいい資源・場所があるのならば、それを活かすような取り組み・仕組みを考えていく必要があるのではないか。特に、物販についてモンベルでは、現在は物珍しさで人が訪れているのもあるのではないか。それを持続的に、環境・雰囲気維持するためにはどうしたらいいか。もう少し何か工夫を今後していくことも考えられる。そのようなアイデアを、何か少しでも言葉で、計画の中で謳っていけるといい。他に、F 委員。何か話を聞いてご自身の地域と照らし合わせながらご意見、ご質問等あれば。
- F 委員) やはり観光資源はあるが人が来ない。日帰りで帰る方が多い。せっかく奥津温泉等あるのだから、もう少し泊りがけで何日か滞在できるような観光施設があれば、より宿泊客や移住の方が増えるのではないかと考える。
- 会長) 例えば奥津湖の周辺を車で見させていただいた。すごくいい場所だが、なかなか人はあまり来ないのではないかと思った。観光や滞在として、最近流行っているキャンプ場など、車で来場しても駐車場がないという話を伺った。そういったものを合わせながら、何かアイデアで盛り上げていくようなことができるといいのかもしれない。今回の計画の中にそこまで盛り込めないかもしれないが、何か新しいアイデアみたいなものを皆さんで出し合えるといいかもしれない。G 委員はいかがだろうか。
- G 委員) 箱の杜公園に駐車場があり、そこに車で訪れキャンプを行ったり、下の陸地でキャンプを行ったりを高頻度で見る。そういったかたちで使わせてもらえたらいいと思う。
- 会長) 場所というか空間的にはある。しかし、使いたくなる場所なのかどうかということが、この施設整備にうまく反映できるといいかもしれない。

- G委員) 観光としての整備がされていないのかもしれない。ただ観光名所があるというだけで、高齢化と若い人があまりいないこともあり、観光名所を盛り上げようという気力がないのかもしれない。鏡野の中心に企業を誘致することにより、人が帰ってきて、賑やかになってほしい。私たちが働きに出てもよい。「元気のある若者が多く集まる計画にしたい」という思いで手を挙げ、いい計画はできたと思うが、若い人が帰ってくるというのは難しい気がした。賑やかな活力ある町にしたいが、なかなか見えてこない気がしている。
- 会長) 体験型観光のような最近流行りのアクティビティを掛け合わせたような工夫があるといいのかもしれない。H委員はいかがだろうか。
- H委員) 一番難しいのは人がいないということである。ソフト面でいうと、みずの郷奥津湖にあった飲食店が道の駅に移り、道の駅にあったバイキングがなくなったが、それを元に戻すことはできないのだろうか。バイキングは人気があり、飲食店もみずの郷にあった時の方がもっと活気づいていた。元に戻せた場合、モンベルももう少し賑わうのではないかと思う。二つ目に、ワークショップが1回だけというのが惜しまれる。回数が多くなり大変かもしれないが、私達のマスタープランの会議と同時進行で、ワークショップを開けていたら良かった。私達以外の方の意見がワークショップの中には多くあるため、この会議と同じぐらいの回数が今まであればもう少し変わってきたのではないかと思う。さらに、4ページのまち作りの将来像について、一番下の「暮らしのまち こころのふるさと鏡野」が大変いいと思う。すごく分かりやすいので、これをキャッチフレーズにできたらいいと思う。個人的にかもしれないが、「花ひらき 未来へ駆ける 鏡野町」のように抽象的なものよりも現実味があり、誰が読んでも率直でわかりやすくいいと思う。
- 会長) 確かに、「暮らしのまち こころのふるさと鏡野」はキャッチフレーズとしてすごくいいと思う。今回、この都市マスタープランの大きなキーワードは、「暮らし」なのだろう。これを大切にすることが、皆さんの気持ちと一致しているのではないかと思う。鏡野町の将来像にも「安心してらせる」というように暮らしは入っているが、H委員からもあるように一番大事なフレーズだから、皆さんの心に響くのだと思う。そういったところを、本日皆さんのご意見を伺ったうえでもう一度事務局と考えてもいいと思う。また、2点目のワークショップの件については、私も各地域1回だけであることに疑問を持った。私としてはできるだけ市民・町民の意見を伺ってもらいたいという思いがあり、それで今回、ワークショップを取り入れていただいたのかと思う。私はワークショップを他の業務で行う場合、大体4、5回行い、そのうち1回は、その地域に住んでいる人と一緒にまち歩きを行う。そうすると、意外と見えてない地域別構想の課題が出てくる。今回は時間の関係もある中で、1回でも町民の声を受けたということは評価するが、本来はH委員がお話しされていたように複数回できると、なお良いと思う。そのため、今後の計画の改定の際など

に、その都度地域の住民たちがもう 1 回考えるような機会を設けるといいと思う。そして、次回の改定の際に出てきた意見が反映されるといいと思う。また、人がいないという 1 点目のお話は、まさに大変大きな問題であるため、引き続き考えていかなければいけないと思う。D 委員、ご意見いただいてよろしいか。

D 委員) 4 地区全てのワークショップで、利便性や病院、公共交通の話題が出ている。やはり、年をとって車が運転できなくなったときに鏡野地域まで出るにはどうしたらいいのか、ということもあるのだろう。それぞれ皆さんがそこで頑張って生活されている分にはいいのではないかなと思う。交流に関しては、滞在としては奥津温泉は高級旅館しか残っておらず、気軽に行って二、三日滞在する類の施設ではないため、以前のような国民宿舎のようなものがあれば交流もできるのではないかなと思う。しかし、冬の雪が降る地域はなかなか客が来ないということが多いので二の足を踏んでしまう。体験も、みずの郷のアクティビティや山歩きには来られているが泊まる場所が少ないので日帰りである。また、言われた通り人がいないとはつくづく思う。富・奥津・上齋原地域では今後の課題となるだろう。皆さんが思われているように、車を運転できなくなったときのために、病院や買い物のできる場所は近くにないといけない。それを行政の人に言うのはなかなか難しいが。

会長) D 委員からもお話があったように、今回の都市計画マスタープラン、立地適正化計画では、病院建設が非常に大きなテーマである。鏡野地域においては、病院の話が健康まちづくりのところでしっかりと謳われている。このように、地域で具体的に実現していくべきだということがあれば、固有名詞でもいいので謳っていくことも良いと思う。また、今回何度か交通の話があったが、これも非常に大切な要素である。今回の全体構想の中のまちづくりの分野を見ると、また、他の都市計画マスタープランでは、交通の方針をしっかりと謳うところもあるが、今回はあえて謳っていない。そこをどう考えるのかも含めて、一つの方針を表に出すなり、経済・交流のようところで、交通の方針について頭出ししておく必要があるのではないかな。やはり地域循環バスのような公共交通機関がないと、いいところがあってもなかなか行けない。自家用車もあるかもしれないが、町内の皆さんの移動手段を確保するための公共交通機関をどう考えるのかは、すぐに実現できなくても何か頭出ししなければならない。事務局、これについて何か検討したことはあるだろうか？

昭和) この都市計画マスタープランの全体構想の中に、道路交通体系に関する基本的な方針を作っており、その中で道路整備に関して記載している。交通の充実、例えばバス交通の充実や北部地域への移動手段の話、環境等を低減するための電気自動車等を使う話等を、大きな見通しを出して謳っている。また、立地適正化計画においても同様に、居住誘導の方針と都市機能の誘導の方針の他に交通ネットワークの方針をしっかりと謳っている。本日は時間の都合で出していないが、両方の計画で出すようにしている。

- 事務局) 全体構想の公共交通の充実ではバス交通の強化を謳っており、鏡野町は別に地域公共交通計画というのがある。現在、今年度改定し、第二期計画を作っているところであるためここには記載していないが、別で公共交通に関する計画は定めている。
- 会長) 全体構想に基本的なところが書いてあるが、今回は地域別構想であるため、特にその 4 地域全てにおいて交通に関しては謳わないという話ではないかもしれないが、もし地域の中で特に交通を意識しなければいけないような地域があるならば、その地域に特化して、全体構想を受けた形で地域別構想を書くということがあってもいいのかもしれない。A 委員はいかがだろうか。
- A 委員) 地域別構想のところで、各地域の町民の皆様からワークショップ内で課題や良いところ等が出てきたので、それを基に取り組んでいくというのが一番良い。だが、ワークショップに参加できなかった方も色々な意見を持たれていると思う。今回ここで上がってきた内容がそれぞれの地域の皆さんの意見を反映できているのか疑問に思う。また、挙げた課題に対して全て取り組んでいく、という理解でいいのか。今回は重点的にやっていくところではないので、5 年計画からは外れるということになるのだろうか。もしそうであれば、どう区別をしながら推進をしていくと決めたのかをご説明いただきたい。
- 昭和) まず、全て反映したわけではない。あくまでも都市計画マスタープランでは、施策を出すというところまでである。具体的な事業に関しては、余程大きなものでなければ記載しない。施策を具体的に検討する段階で、事業や行政の各課からいただいたものは事業系で、住民に今回出したものは全てアイディアベースのものとして、記載している。まちづくりをする時に住民同士、あるいは行政と住民と企業の三者が一体になって連携しながら、まちづくりに取り組んでいくというテーマとして出させていただいている。
- A 委員) それぞれの地区の方々の課題として、教育や定住が挙げられているが、町外の方々をどう呼び込むかが課題となる。PR の仕方や鏡野町のいいところをどう発信するのも関係してくると思う。
- 会長) 例えば定住の話について。前の議論でやはり定住的な関係人口をどう増やすのかという話も議論に出たと思うが、それらに関してはどう対応しているのか。
- 昭和) それは立地適正化計画の方で対応している。都市マスタープランは本来、定住をそこまで載せないが、今回は議論があったので定住という言葉も居住のところに入れてはいる。具体的な話になると、立地適正化計画に居住誘導ということで、移住・定住を入れている。この中でどう人を増やすか、人口密度をどう維持していくのか、

あるいは増やしていくのかということを検討するために、これまで町が行った取り組みやこれから行う取り組み、例えば、婚活や空き家の活用など、これまでの実績から毎年どれぐらい人が増えるという傾向を見て、数字を出している。また、本日は出していないが、県の指導の下、立地適正化計画の中で増やすことができる人口を具体的な数字として出している。そして居住誘導という方針として、維持できる人口密度を出している。本日の資料には記載しておらず、前回資料では古いかもしれない。最終的には最新の値が入ったものを提供する。

A 委員) 説明を受けて思い出した。これは居住誘導区域に、現在鏡野町に住んでいる方々を誘導するということであるが、町外、県外の方々をどういのかたちで呼んでいくかも重要であるため、誘導とは少し違ってくると思われる。

会長) 今の事務局の答えの場合、立地適正化計画は具体的な話である。全体構想の経済・交流に、賑やかで活気のあるまちづくりとあるが、その中で、産業・観光による経済力の向上や、交流にぎわいの創出とあることから、今のところに言葉を何か入れておくことは十分可能ではないかと思う。どちらか一方だけに謳っておくのではなく、計画は連携することが大切であるため、このように頭出しはしているが既に意見されたことも謳っていけるのではないか。皆さん一人ひとりからご意見を伺ったが、何かこれだけは言っておきたいことがあればぜひ伺いたい。

会長) 本日は都市計画マスタープランにおける委員会として、ある程度のまとめの会議だと思う。ぜひ忌憚ないご意見をいただきたい。県の都市計画区域マスタープランあるいは諸計画との連携は、事務局の方でしていただいていると考えていいのか。

昭和) はい、入れております。

会長) 暮らしのところに「定住する住みやすいまちづくり」とある。これはこれでいいと思うが、そのあとに（）で若者定住とあえて断定している。今までお住まいになってきた方々や、高齢者の方々も今後住み続けられる観点も入っているとは思いますが、しかし、このフレーズだけみると若者だけが定住してくれるというように見えてしまう。これについて何かご意見あるか。

昭和) ご指摘の通りである。高齢者から子供、外国人、町民の方それから皆さんも含めた形にはしているが、おっしゃる通り、若者と限定して象徴的に出していたため、それよりも誰もがというようなことで捉え直して入れていこうと思う。

会長) また、資料 12 ページのまちづくりのテーマで「リトリート」という言葉が使われている。気持ちも意味も分かるが、この言葉がわかりづらい。これは一般の町民の方々が理解できる、身近な言葉でありたいので、何か言い換えられるといい。

事務局) これについてはワークショップでその地域の方がまとめてくださったテーマになるので、そのまま載せたいという思いがある。

会長) それは町民の方から出た言葉ということであるか。

事務局) その地区ごとでフレーズをまとめており、それを受けて 13 ページの将来像のところに書いている。町の将来像と先ほどのワークショップで出たご意見をまとめて「きてみんちやい、奥津でととのう 人と暮らしの拠点」と融合させている。この四角で囲っているまちづくりのテーマは、その地区でまとめていただいたご意見としてこのまま載せたいと思っている。

会長) 委員の中で奥津の方がいるならご意見を伺いたい。この言葉は地域住民の方の言葉として出てきたらどうか。

D 委員) 誰が言ったのだろうか。

会長) 地域の方々がこの言葉でいいというのであれば、それでいいと考える。

D 委員) 参加された方が言ったのであれば、それはそれで良いと思う。「あれ？違う言葉に変わっている？」と思われるよりは良い。

G 委員) 「何もないのがええんじゃが」というのが、残念に思う。何もないのが良いとは思えない。ただ中身を見ると、こんなところが良いと書いてあるため、全く何もないわけではないとは思いますが。何もしてもらえないのではないかと感じてしまう。

会長) 先ほども言った通り、町民、市民の方々の言葉をそのまま使うことも非常に大切な視点だが、それが広く、皆が共感できるフレーズでありたいと思う。例えば何もないのいいのか、あるいは同じ言葉でも何かアピールできることがあるといいのかもしれないと思う。奥津らしさを活かしたまちなど、奥津の資源を活用したのも一つかもしれない。しかし、皆さんで議論して出た言葉ならば、それを尊重するということもあるかもしれない。ただ、実際に奥津の方がそういう風におっしゃられるということは、何か考えるべきかもしれない。これは策定する前に、パブリックコメントなど何か行うのか。

昭和) はい。パブリックコメントを行い、意見を反映させる。

会長) そうすると、G 委員のご意見があれば、そこで一度意見を入れて、最後決定するというやり方もある。そこでもしかしたら変わるかもしれない。

- 事務局) ワークショップで出たワードをそのまま使うのではなく、変えるという認識でよい
か。
- 会長) 地域の皆さんがワークショップに出て決めたのだから、これで一度出す。しかし、
そこに参加されなかった町民の方もいるため、これを見たときにご意見あれば、そ
れを反映させるためのパブリックコメントである。
- 事務局) 「リトリート」や「何もない」というのはワークショップより出たテーマであり、次
のページで町として将来像を掛け合わせている。これが地域別構想の将来像である。
ワークショップで出たものは出席された方の意見で取りまとめたものなので、あく
まで素材の一つという捉え方をしていただきたい。
- 会長) その場合、都市計画マスタープランそのものに、その言葉は出てこないということ
なのか。
- 事務局) この言葉自体は出てくるかもしれない。この要素の一つであるという意味合いで出
てくることはある。
- 昭和) それについては議論しているところである。これはワークショップででた特定の人の
意見だということでもあるため、参考資料に回すという話もある。しかし、今の
段階では、あくまでも住民の生の声ということで、計画書の中にそのまま入れては
どうかと考えている。それについては引き続き議論をしていくが、そのまま出すな
ら、あくまでもワークショップで住民の方が出されたテーマとして、記載した方が
いいと考えている。
- 会長) 個人的な意見になってしまうが、先ほどのH委員の話と関係していて、ワークショ
ップそのものが非常に充実した中身の濃いものであって、叩きに叩かれたものであ
れば、そのまま記載してもいいと思われる。しかし、1度開かれただけで決めた内容
が入ってくるのならば、まだ検討する余地があるのではないかと考える。そうした
場合、今回はこれを切り離しておくべきかもしれない。ただ、そうするとしても町
民の意見は町民の意見として、こういった意見が出たということを本編、もしくは
資料編みたいなもので出して、公になる本編のところではそれを除いたところを出
すと良いかもしれない。
- 昭和) おっしゃる通りだと思う。もしそのまま計画書の中に入れるなら、赤線で枠組みな
どをして、ワークショップの意見としてコラム的に出すこともできる。先生がおっ
しゃったように、切り離して参考資料の方へ持っていくという手もあると思う。そ
れは一度、町と議論させていただければと思う。

- 会長) G 委員のご意見は、本当に地域に住んでいる方の声としてすごく大切なところである。そこは十分に尊重したい。また、事前の打ち合わせの中で、エリアマネジメントという言葉が追加されている。皆さんにエリアマネジメントそのものがまだ身近なものとして浸透してないかもしれないため、引き続き説明を行っていくか、もしくは地域経営や地域管理、地域運営といった言葉に置き換えることが考えられる。言葉については、最後仕上げるときに検討していただきたい。他に皆さんいかがでしょうか。皆さんの計画になるため、自由に意見していただきたい。E 委員はいかがだろうか。
- E 委員) 全然関係ない話で申し訳ないが、吉井川筋で開発の話が出ている。全く個人的な意見だが、越畑方面の香々美川筋は人口が減る一方である。空き家を買って移住したい人などはいろのか？
- 事務局) あるにはあるが、特別多い・少ないことはない。多くはないが、最近土地が買われており、寺和田あたりまでで少し話は出ている。
- E 委員) 岩屋など、あの辺の風景は昭和感があって懐かしくていいと思う。週に一度人形峠に行くが、季節がいい時にはわざわざ奥津から越畑を超えて鏡川筋通って行ったりする。とても懐かしい感じがする。あの筋に人が住んでいるかはわからないが、古い建築が割とあり懐かしい。下手に開発しない方が良くとも思う。全く個人的な意見だが、そのように思われる方はいらっしゃるのか。
- 事務局) 空き家バンクが何件入っているかは、今すぐに把握できないが、それなりに空き家の登録、相談があり、そのまま使われるパターンもある。今の傾向でもあるが、空き家ではなく、更地に新居を建てたい方もいらっしゃる。その辺についてはマッチングの話となっている。
- E 委員) あの風景は悪くないと思うため、物好きな方で住んでくれる人がいないのかと思った。
- 事務局) 好んで空き家、古い建物に住まわれる方もいる。ただ、それがそういう方々にとってどこまで魅力があるのかはわからない。
- E 委員) 外の人目に触れなければ、気づかれようはない。最近の建築にない、サッシになった木製の窓の、凝った建物が結構あるが、あれではもったいないと思う。
- 会長) 今のはすごく大切である。今回、景観に関してどこかで意識しているのか。

- 昭和) 都市計画マスタープランの中で、全体構想に景観の方針を記載している。
- 会長) 新しい景観を作るだけではなく、鏡野の古い景観を守っていくというようなことも大切な視点である。それが具体的な場所として皆さんの共感を得られると、地域別構想に載せることも考えられる。また今後は、先ほど事務局から説明があったように、地区計画のように、地区固有の計画で具体的なものを謳っていくまちづくりを進めていただきたい。E委員のように、何か自分の地元にこうしてもらいたいという気持ちがあれば、ご意見いただきたい。本日いただいたご意見は事務局で検討させていただくとして、これから気づいたことをお受けする機会はあるのか。
- 事務局) 9月末頃までであればいつでも受け付けているので、ご連絡いただきたい。
- 会長) 本日の委員会の結果、あるいはパブリックコメント前に受けたご意見、それぞれの地域で話し合ったことは、ホームページにあげられるのか。逆に、パブリックコメント以外に、一般の市民、町民から意見を伺う機会はあるのか。
- 事務局) 本日の策定委員会が終わればホームページに議事録として掲載し、広報にも載せる形になっている。
- 会長) ぜひ皆さんから広く意見いただける場をつくってほしい。ほかに意見はあるのか。何かあれば後ほどでも事務局にご連絡いただきたい。事務局、連絡事項があればお願いしたい。
- 事務局) 本日皆様からいただいたご意見は、今後検討を行う。まず冒頭で事務局の榎本より委嘱期間の延長についてお伝えをさせていただいた。10月中に改めて委嘱状を送付させていただく。皆様に関しまして、何とぞよろしくお願いを申し上げたい。また前回の策定委員会で立地適正化計画の確認を書面にてお願いする旨をお伝えしていたが、委員の皆様にご確認いただくのはおそらく12月中になるかと思う。年末の忙しい時期ではあるが、ご確認をお願いしたい。最後に、次の委員会の開催は11月末ごろから12月ごろを予定している。重ねてのお願いとなるが、出席をお願いしたい。ほかにご意見ないようなので、これをもって第5回鏡野町都市計画マスタープラン立地適正化計画策定委員会を閉会とする。